

平成 19 年度宮前区区民会議・明日のコミュニティ部会(第 4 回) 摘録

日 時 平成 19 年 8 月 22 日(水) 18 時 00 分～20 時 00 分
場 所 宮前区役所 4 階第 2 会議室
出席者 宇賀神部会長、小林委員長、川島委員、小泉委員、鈴木和子委員、鈴木恵子委員、
高木委員、永野委員、松井委員、三谷委員、目代委員
事務局 田邊企画調整担当主幹、中山同主査、成沢職員
佐々木こども総合支援担当参事

1. 開会・事務連絡(事務局)

事務局から事務連絡

- ・ 総務企画課主管は本日会議のため、途中からの参加となります。
- ・ 会議公開について(説明)
- ・ 第 2 回区民会議全体会で三谷委員が部会の経過報告を行ないました。11 月の第 3 回全体会までに部会としての何らかのまとめをと考えています。今後はより具体的な議論をお願いいたします。

部会長挨拶

お暑い中お集まりいただきありがとうございます。議事に入る前に先日の区民会議全体会、急遽欠席となってしまったことをお詫びいたします。特に三谷委員には急遽部会の報告をお願いすることになり本当に申し訳ありませんでした。それではさっそく議事に入りたいと思います。

2. 議事 地域の課題の具体的解決策について

事務局から資料 1・2 に基づき、これまでの議論の経過、内容について報告。

資料内容に付加された主な説明は以下のとおり

- ・ “新住民”“旧住民”は、これまで部会で度々使われてきた言葉であるが、今後まとめの作業に入り、外に出す段階を考えた時、言葉の定義を明らかにする必要があると考え、事務局で話し合い、案として定義させていただいた。この言葉を使うかどうかも含めて討議いただければと思います。
- ・ 他部会との議論との関係も、部会としての扱う範囲が広いということで、今回新たに示させていただきました。
- ・ 事務局としては、提案という形にまとめていただく場合、ある程度数を絞っていただきたいという気持ちがあります。

宇賀神部会長 事務局からこれまでの議論の内容や経過をまとめたものをお話いただきました。提案の数についても、できれば絞り込んでというお話がありました。今日からより具体的な検討に入りたいと思いますが、先ほどの説明の内容についても含め、何かございましたら、お願いいたします。

小泉委員 新旧住民というものを、こういうふうに分けて定義づけして良いものなのかどうか。交流を進めると言いながら、分けてしまっているようにも感じます。あえて定義しなくても良いのではないのでしょうか。“新”と“旧”をどこ分けるのかも問題になる。この分け方だと“新”に分類される人の中にも、ごく最近来た人と、20 年や 30 年人生の大部分を宮前で過ごしている人もいる。分けることは少し心配です。

川島委員 私もあえて分ける必要はないと思います。全部“住民”でよいのではないのでしょうか。

鈴木委員 私もそう思います。

川島委員 いろいろな世帯がある。この言葉をつかって変に勘ぐられて捉えられても困ると思います。

三谷委員 議論の材料として出したということできなり対外的に出すものではないと思います。いろいろな議論がある中で何らかの目安、ものさしをもっていないと収集がつかなくなってしまう恐れがあります。

川島委員 新旧というより、むしろ私のような高齢者と若い人たちの世代間の意識レベルの差を感じることがよくあります。若い人の心やニーズを私自身うまく掴みきれていないと感じています。なかなか難しい問題です。自治会未加入の問題も、入らないのは若い世代なのではないでしょうか。

永野委員 長年東京に通うサラリーマン生活をしていて、定年になった 60 過ぎの人達が、地域にうまく入れないことがあるという話がある。これは単に世代間の問題ではなく、物の価値基準に差があるのではないか。農村型で、地域のトップがいるピラミッド型の価値体系を尊重する人達と、そうではない個人主義的な考え方や、全てフラットな中で物事を決めていくべきだという考え方をもっている人との融合がうまくいっていないのではないか。その辺りの価値観の違いを“ 新住民 ” “ 旧住民 ” という言葉で表しているのではないか。若い人でもピラミッド型の地域コミュニティにうまく入れる人もいるし、年寄りでもうまく入れない人もいる。物の考え方や価値観の違いを明らかにして、互いに理解することが必要なのではないのでしょうか。

宇賀神部会長 昭和 41 年以前以後で新旧をズバツと分けてしまうやり方では問題があるということですね。

小泉委員 農協などの会合を見ても、トップの人が何かを決めてそれに皆が従うというようなやり方は、昔はあったのかも知れませんが、今はしていません。今は若い人から、女性から、様々な人が入って話し合っていて進めています。

永野委員 私は宮前区に住んで 25 年ほどですが、住んで 5、6 年目から町会組織や P T A にはうまく入っていったと思います。地域型のコミュニティだけでなく、まちづくり協議会などテーマ型のコミュニティでもいろいろな方と一緒に活動していますが、テーマ型コミュニティでやっている人が、地域型のコミュニティにうまく馴染めないということがあるように感じます。これはどちらが良いという問題ではなく、物に対する感じ方、判断する基準、相手の立場の聞き入れ方などにギャップがあるように思います。両者を馴染ませる必要があると思います。

三谷委員 11 月までに部会としてのまとめをしなくてはならず、開催回数も限られるなか、できるだけ抽象論ではなく具体論を話し合うべきだと思います。11 月に向けてのまとめがどのような形になるのか、ある程度設定できれば、そこから逆算したスケジュールも見えてくると思います。私はこの部会は高齢者福祉部会や子ども部会のように具体的な提案をまとめるのは少し難しいだろうと考えています。ある程度は抽象的な話にならざるを得ない。これをいかにまとめるか。我々の考えていること、やってきていることをいかに地域に浸透させるか考えています。

17 の小学校区も温度差があります。我々の任期は 19 年度いっぱいとなっており、来年度以降は委員としては関われないかもしれない。その点も意識しながら進めていきたいと思っています。

宇賀神 新旧住民という言葉の使い方、解釈については、ここである程度解決しておく必要があると思います。やはり新旧住民という言葉を使うと、いろいろな意見が出ますし、誤解を招く恐れがあります。例えばただ“ 住民 ” と変えてはどうでしょうか？

川島委員 “ 地域住民 ” という表現が良いと思います。

松井委員 地域住民同士の意識ということになりますね。

川島委員 年代別で、例えば中学生なら中学生、20 代なら 20 代、30 代なら 30 代で同じ年代が集ま

れるような機構や組織づくりをうまくつくっていけば、いろいろな活動が活性化するのではないかと思います。地域のコミュニケーションにもつながるのではないのでしょうか。

松井委員 地域で大事にしたいものは何なのか、そのものさしについて、地域で共通の認識を持てれば、地域はまとまりやすくなると思います。

例えば私の地域では水と緑をテーマとして過去活動をしてきました。そうしたら、わりとみんなノッてきて、学校や地域などから多世代が関わりました。太鼓を学び、練習することを通じて和文を学んだりもしました。地域で共通のテーマを持ち、その中で子ども達も成長していけば、コミュニティができてきます。

川島委員 そうした流れをなんらかの提案として、いくつかのテーマをまとめられれば良いのではないのでしょうか？

松井委員 例えば歴史のある建物や祭事なども地域で大事にするものです。盆踊りやお祭、運動会などの地域の行事も、内容に磨きをかけて、地域をまとめる上で一役かえるようにすることができます。例えば、今は自治会中心でやっている行事をもっと広く他の団体にも声をかけて実施する。地域教育会議でやっているプログラムを社会福祉協議会などに声をかけてもっと広く実施する。地域の特長はそれぞれ違うと思いますが、地域ごとに大事にしたいものをあげ、それを更に活性化するために地域の諸団体が関わられるようにしていければ、コミュニティの形成が進むと思います。

川島委員 私の世代にいきなり 20 代と一緒に何かやれといっても難しいです。なかなか若い世代が出てくる場も無い。その意味でも重要だと思います。

宇賀神部会長 小学校区単位事で、大事なものをテーマを地域みんなで見つけてもらうという考え方はとても良いとも思います。

永野委員 宮前区には規模が非常に大きな町会から小さな町会まで様々ですが、特に大きな町会では細かな事がなかなかできないから、上の人にお任せということがあったのではないのでしょうか。小学校区くらいの歩いて周れる範囲、互いの顔を覚えられる範囲であれば、お任せにならず、みんなが何かでき、それぞれの得意技も発揮できると思います。

キーパーソンの発掘や、地域に親しみ交流する地域イベントの活性化や創出は新たにやっていく必要があると思います。例えば老人会はわりと小さな単位で活動していますので、これを活性化して巻き込んでいけると良いと思います。その上で参考になると思うのが、先日お話を聞いた平小学校区の子どもの安全・安心協議会の事例です。学校・PTA・地域の三者が共同指導体制をとって、それぞれの人材を駆使して活動しています。誰か一人をリーダーに立てるのではなく、三者が核になって物事を進めていました。新しい発想もいろいろと生まれてきやすいのではないかと思います。

宇賀神部会長 小学校区によって環境や、住民の年齢層なども異なります。この様々な条件に対して、一律にこうと決めてしまっってはなかなか進まないだろうと思います。それぞれの小学校区で、その地域に合った共通のテーマを見つけてもらうやり方で進めた方が良いと思います。

松井委員 町会、老人会、婦人会などは、それぞれ様々な自分達の為の活動を普段行っているわけですが、年に数回くらいは自分達が主体となりながら、自分達だけでなく地域全体の為になるようなイベントを企画して動かしていく。そしてそれを周りも応援していく。そんなことができれば良いと思います。

鈴木和子委員 文化協会はコミュニティを意識し、伝統文化の伝承や地域文化の向上をうたって活動しています。特に子どもたちに伝統文化やコミュニティを伝えたいとの想いから、犬蔵小学校の子

ども達などに文化祭にも参加し、文化協会のことも広く知ってもらえるよう務めています。

お年寄りを大切にすることや、お年寄りがあるから今の自分達があるということを伝えようということから、敬老の日や盆踊りにも子どもとお年よりと一緒に参加する機会もつくっています。こうした試みの中で、子ども達に伝わっているものがすごくあると感じています。今考えているのは文化祭の時に子ども達や地域の方に展示コーナーに参加してもらい、互いに学んでいることを発表し合ってはどうかということです。コミュニケーションをとりながら進めていきたいと思います。

宇賀神委員 私の地域の敬老会でも子ども達が書いた手紙を高齢者のひとり一人に届けたりなどの交流をしています。老人会の方も小学校に昔の遊びを教えに行ったりと、交流が進んでいます。

鈴木和子委員 私は、茶道や浴衣の着付けなどを地域の中学校や高校に教えに行く活動なども行っています。少しは地域の役にたっているかなと思っています。

松井委員 個々の試みは結構あります。地域を活性化させるために、それらの試みを共通認識の元に、地域が結集することが必要だと思います。バラバラの考えの元では大きな力にはならないでしょう。

鈴木恵子委員 先日、神奈川県提案型の協働事業で地域福祉コーディネーターの育成事業を引き受けました。これまでバラバラにやられている地域の活動をうまくまとめていく、コーディネーターを育てるための事業です。まさに資料にもある「住民をつなぐキーパーソンの発掘」「人脈をたどった担い手の発掘」ということです。このコーディネート機能がないために、それぞれでは良い活動をしていても、それらが連動していきません。ここを連動させて、小さな活動が大きな力になり、コミュニティがうまくいくというふうにもってきたいです。

私たちの野川地域では、区割りの関係で中学校区の単位で取組んでいます。まちによっては小学校区くらいの単位で担い手を育てていったり、地域内にどのような活動があるのか調べてまとめてみる。具体的にできそうなことを取り上げてみるというのも、この部会のまとめになるのではないのでしょうか。比較的簡単に取組めて、地域特性を活かした活動にもつながると思います。

鈴木和子委員 文化団体でも、他の団体でも良い活動をしているところは互いに情報をいただいて、一緒にできることは一緒にやっていきたいと思っています。

鈴木恵子委員 6月末に発表された国民生活白書は、その中心が「地域をつなぐ」ということになっています。どうやってまとめていったらいいかヒントはこれまでの話の中にも出ていると思います。

永野委員 防災部会では、宮前区独自の地域防災指導員の制度をつくって100人くらい育成してはどうかという話が出ていました。ゴミ減量指導員のように、他の人を指導でき、核になって人をつなぐ、コーディネートできる人を育成し、その人を中心にして地域の様々な人を横につないでいくことができれば、防災、子育て、高齢者の見守り、などと分けないでうまく連携できるのではないかと。

小林委員 キーワードがいろいろ出されてきています。宮前区では全ての小学校区でこども安全・安心協議会が立ち上がっていますが、例えばこれをどうしていくのかなど具体的な議論が必要だと思います。住民相互の理解の促進のところでは、松井委員の言われるように、もっと大きな地域が一体となって楽しんだり、取組めるような活動の場をどのように設定するのかということだと思います。また担い手のところでは鈴木恵子委員の言われたような地域コーディネーターの育成を、どのようなしくみで、どのように、どのくらいの人を育てていくのかというところを具体的に詰めていけば良いと思います。平小学校を一つのモデルケースにして進めていってはどうかでしょう。

三谷委員 できるだけ宮前区を客観的に捉える必要があります。そうすれば宮前区の特徴が見えてきます。宮前区は平均年齢36歳、転勤族が多いということで、あまり定住しない傾向がある。そして昼夜間人口比率が31%ということで、日中多くの人が区外に出ている。ここになかなかコミュニテ

ィが形成されにくい一因もあると思います。明日を見据えてどういう宮前区をつくるのか、考えていけないといけない。目の前の現象の対処的な考え方ではまずいと思います。

また宮前区には前期高齢者が多いということで、これは昭和40年代の開発で公団住宅等に入居してきた層が中心となっていると思われます。これらの方々、今はまだ元気ですが、やがて介護や認知症などの問題が多く出てくるだろうと思います。この辺を踏まえながら、コミュニティの形成につながるプログラムをどうやって実現、実行していくか、行政頼みでなく、真剣に考えていかなければなりません。

松井委員 地域毎に地域の皆が合意をする下地が必要です。その地域で大事にしていきたいものが何なのか、それは5年、10年の中では変わっていくものかも知れませんが、それを地域で協議する場があるということが大事だと思います。その場で例えば「今後3年間はこういうことをやっていこうよ」というような共通認識を持ってまちを動かしていく、その繰り返しはその時その時の時代の流れに合わせて行なわれていく。地域の多くの人の合意の上でトライしていくということがどうやったら、できるかということだと思います。地道な活動になります。

鈴木和子 先ほど川島委員の言われた年代別の意見や声を集めるところと、全体の合意を形成するところが両方必要ということでしょうか？

川島委員 やはりまず“場づくり”ということだと思います。それは松井委員も私も共通している。そしてそこにいろんな人が入ってくるということが重要です。松井委員の活動ではとん森や平瀬川などをテーマにした活動がいろいろ発生してきています。こうした活動を通じて、小学校区単位で地域の中で先頭に立つ人を探していく。いろいろな世代の人を集めることができれば、いろいろな意見も出てきます。

松井委員 「水や緑」は多世代が生き生きと活動ができる要素があるテーマだと思っており、活動を広めようと努力しています。区役所の総務企画課を窓口にして緑の回廊マップづくりにも取り組んでいます。回廊マップは8中学校区で取組もうとしているのですが、成果物がどうというよりも、作成の過程を大事にしています。いかに地域の諸団体やより多くの人をいかに巻き込んで、調査やワークショップなどを行っていくかということです。地域のちょっとした緑や花に磨きをかけよう、我が家の庭もこうしよう、そういうことに地域の住民が目覚めて、みんなでそういう気持ちを持つ事ができれば、コミュニティの形成につながると考えています。ただ、水と緑がどの地域でも使える絶対的なものだとは思っていませんし、一つの情報発信として、コミュニティの形成を常に意識しながら取組むようにしています。

川島委員 我々が若い頃、区民祭をやろうと立ち上げました。最近では鷺沼の商店街などで、地域の学校なども巻き込んで、祭や盆踊りなどのイベントを作り上げています。場をつくって、その中でいろいろな人たちを巻き込んで、様々な意見が出てきて、コミュニケーションが生まれる。小学校区単位で場をつくらうということにつけるのではないのでしょうか。

小林委員 小学校区単位で、こども安全・安心協議会を核に活性化していこうということは決まっています。これをどう進めていくかを話し合ってはどうでしょうか。そうでないとなかなか話が進まないように思います。

小泉委員 こども安全・安心協議会の更なる活性化と言うならば、“更なる”部分をどう進めていくのか、どういう人が中心になって、どういうことを、どうやって進めていくのか、そこまで考えて議論していかなければ進まないと思います。

今郵便局などでも配達の際にこどもの安全の見守りに協力するような話もありますし、農協など

も同じようなことをしようとしています。また、まだ全市で話がまとまっていません。宮前区だけで先行してやってみても良いかも知れません。また、タクシー会社は最近制度が変わりまして、宮前区内に7~8くらいの業者がありますが、タクシーに不法投棄や子どもの安全を見守ってもらうというような提案もあると思います。具体的にある程度出して行って、この会で出したことが一つでも実現して、宮前区の安全・安心が前進してこそ、この区民会議の価値が出ると思います。議論して区長に提案しているだけでは何にもならない。

宇賀神部会長 “更なる活性化”に必要なものとは何なのか、どんどんアイデアを出していただければと思います。よろしく願いいたします。平小学校の活動例が良いという認識が皆さんの共通認識だということであれば、モデルケースとして、各小学校区に呼びかけてはどうでしょうか。

永野委員 こども安全・安心協議会は発足してまだ1年ほどです。立上げの際には、区全体でやるよりも、17ある小学校区毎にした方がきめ細かく活動ができるだろうということで、各小学校に呼びかけることから始まりました。早い所では6月頃、大体夏ごろから各小学校で立ち上げられ、一部中学校区単位で合同で活動している地域もありますが、全ての小学校区で立ち上がっています。

この中でも、平小学校区は活動が非常に活発です。他の小学校区では大体PTA会長が代表を務めているのに対し、平小学校区では地域の民生委員の代表の方が代表をしており、その人脈を生かして、登下校時間に毎日街角に立って、見守りを実施しています。登下校の見守りを毎日行っているのは平小学校区の他に向丘小学校区もあります。向丘小学校では老人会の方々が中心となっています。その他の地域でも登下校の時間に合わせた散歩を奨励したりしています。一つ今後の課題としてあげられたのは、学校側から見守りを担う人達への登下校時間の連絡がまだうまくいっていないということです。これには登下校時間が広まると逆に犯罪につながるのではないかという意識もあるようです。また最近の学校には電話連絡網がなく、その辺りも地域とのギャップになっているようです。平小学校区の場合は、地域の人と学校とPTAの三者で協力して指導していく体制が非常にうまくできていると感じました。学校と地域が気軽に話しができる体制をまずつくることが大切だと思います。その上で誰をキーパーソンにするのかということです。ただ、最近の学校は今玄関をオートロックにしたりしています。これはもちろん外部からの侵入者を防ぐ意味では重要なのですが、なかなか地域の協力を仰ごう、地域と協力していこうという発想が出てきにくい環境もあるように思います。

目代委員 校長先生の意向次第でかなり変わってくるのが実態です。私の地域の宮崎台小学校学校では、逆に登下校時間を知らせることで、地域の方々に目配りをお願いするという話が学校の方から地域にありました。

永野委員 学校と地域がうまく結びついていければ、地域ぐるみということになると思います。なかなか昼間の見守りというのは、現役の仕事を持っている人にはできません。そうするとやはり老人会などの方々が中心になるようです。後は商店街の方々にその時間に水撒きをしてもらうなどできると思います。その時間に家にいる人が家の前に出る。それだけでもかなり変わってくると思います。

鈴木和子委員 平小学校区でどのような活動が行われているのか、資料がいただければと思います。それを見て、加えるような意見があれば検討していければと思います。

永野委員 以前の部会で平小学校の方を招き、直接話を伺って、資料もいただいています。ただ、区民会議委員だけに知らせるのではなく、区民に広く、こういう活動事例、成功例があるよということで広報していく事も必要だと思います。

高木委員 小学校区で進める切り口の一つとして子ども安全・安心協議会ということは良いとおもうが、それだけだとテーマが防犯だけになってしまいます。本来は地域に関心の無い方にどうやって関心を興味を持たせるかということが最も重要です。それにはやはり顔の見える関係づくりです。地域にどういう人達が住んでいて、どんな活動をしているのか、わからなければなかなか地域の活動には参加しません。防犯パトロールも非常に良い活動だと思えますが、先ほど松井委員や川島委員が言われたような場づくり、いろいろな団体が連携する場が必要になってくると思います。様々な活動をしている町会が、小学校区単位で集まる中でどうやっていったらいいか。防犯はその一つの切り口にはなると思いますが、その先まで考えていかないとだと思います。

小林委員 防犯と防災、この二つのテーマだけで手一杯ということが実際にはかなりあると思います。ただそこにうまく人を集めることができれば、二次的なテーマや活動も発生してくるのではないのでしょうか？まず小学校区単位で防災のことを考えてやっていくことから始めてみてはどうでしょうか？それに地域で要素を加えていくのは一向に構わないと思います。

三谷委員 コミュニティの活性化というのは、結局は人です。人の活性化です。町内会などは、高齢化などにより後継者が育っていないという懸念があります。そこで、町会の加入率をあげる、若手を登用する。さらに区内に8000人という団塊の世代に活躍してもらい、魅力的な町会にするにはどうしたらいいかということ行政とも一体になって考えていくことが必要だと思います。

これまで何度も言っていますが、商店街が地域の文化や担い手、地域の活性化を担っている地域が多くあります。宮前区ではそうした話がなかなか出てきません。行政にも担当者がいません。行政のバックアップも不可欠だと思います。人に着目して、人を活用していくことが重要です。先日の部会でも鈴木恵子委員の方から、PTAのOBをもっと活用してはどうかという意見も出ていました。町会や民生委員、老人会に限らず、地域にはいろいろな人がいるはずで。

松井委員 住民を活性化させるためには、良い場がなければ、良い人は集まってこないし、地域の人材に磨きをかけることもできません。良い場をいかに地域で創出できるかが非常に重要です。場づくりにもっと知恵を使うべきだと思います。活性化は言葉では簡単ですが、そう簡単にはいきません。頑張っているけれどなかなかうまくいかない。行政からの支援もお金を出せばよいというものではない。もっとみんなで一緒に本気になって企画をやっていく必要があると思います。

川島委員 商店街の人達は昔から、地域に対する意識を持って、活動的にやってきた。しかし段々と手助けがなくなってきて、辞めてしまう人も出てくる。区役所に担当をつくってくれということも、20年以上やっている。

松井委員 市長に、「区にも商業振興課も持ってきてくれ」「商店街が元気ならそれだけ地域にも貢献するよ」とかなり言ってきた。

川島委員 商店は事業者だという認識があるようだが、そうではない。商店街は地域についている住民であり、地域の活性化のためにいろいろやっている。そこがなかなかうまく伝わっていないように感じます。

宇賀神委員 子ども安全・安心協議会を通じて、学校、PTA、町内会だけでなく、老人会や青少年指導員や民生も含め、地域の様々な組織と一緒にフラットなテーブルの元に集まって進めていく場ができてきている。これをなんとか利用しようというのが、我々の着目点です。ここで間違えてはいけないのが、彼らのやることを我々が決めてあげようというのは間違いだということです。何をやるかは彼ら自身が決めることで、我々は組織が活性化する方法を提案していくのが筋だと思います。テーマが防犯や防災だけであつたら、その内つまらなくなつて集まれなくなることもあるかも

知れません。そこでイベントや地域のテーマ設定など楽しく集まれるようなものを提案できれば、それが区民会議としての提案となると思います。

松井委員 安全・安心は大切なテーマですし、やらなくてはいけないことなのですが、義務感に駆られてやっているだけでは、長続きはできないと思います。楽しみながらやっていくにはどうしたらいいのか、もっと知恵だしをしていかなければならないと思います。

三谷委員 区長に提案して終わりではなく、その先まで考えなければなりません。むしろ地域に、住民の誰かに向かって提言しているということです。

川島委員 小学校区単位で、「この地域でコミュニティの場をつくっていきましょう」という会合を開く。その中で例えば正月に凧揚げ大会をやりましょう、年末にはもちつきをやりましょうというようなこともどんどん出していく。それが進むことによって人が集まるし、担い手も出てくるような流れができると思います。

宇賀神部会長 こども安全・安心協議会に、サブテーマを決めてもらってはどうか。例えばこの地域は音楽をやるよということになれば、地域の音楽家や音楽サークルを集めてイベントをして地域みんなで楽しむことに取組んでみてはどうか。

川島委員 協働推進費の 5500 万円というのはまさにそういうことのためにあるのだと思います。私も、社会福祉法人みのり会で知的障害者の施設の活動を 15 年しています。いろいろな人をお願いしてバザー等の献品をしてもらっている。それを買っていただいたり、楽しんでいただいている。まずはそういう場を持つこと。一度走り始めれば、うまくいくと思います。

宇賀神部会長 ただのイベントになってしまうのは、今でもいろいろとやられていますし、面白くないと思います。

川島委員 その中でコミュニケーションが生まれれば、コミュニティの形成につながります。

小林委員 私は平小学校の事例をモデルケースとして、防災についてのコーディネーターを派遣してみたり、学校でオーケストラをしてみたり、そういうふうにして、成功例をつくっていったらどうかと思います。そうしていかないと動かないと思います。

川島委員 私もやはり何か動かしていかなければだめだと思います。

目代委員 先日、宮崎小学校のこども安全・安心協議会の集まりがありました。集まったのは民生の方、町会の方、青少年の方、老人会の方などで、会長をはじめとした馬絹の商店街の方々と初めて地域の方々が顔を合わせて、話ができました。みんな「参加して良かった」と言っていました。これまでそれぞれやっている活動はあったが、他の組織の人はそれを知らなかったことがあったのですが、それがこの地域ではこういうことをやっているんだということが地域のみんながわかるようになったという声が出ていました。地域コミュニティの合意の場になるにはどうしたらいいのかと考えるとやはり、いろいろな団体のコーディネートだと思います。例えばもちつきをやろうといっても、もううちはやっているよという団体もあるだろう。その合意をどのようにもっていったらいいのか新しい提案をうまく出していくことも必要です。小林委員がいうようにテーマの強制はできませんから、それぞれの地域によって出てくるものも異なってくると思います。

川島委員 まず走り出そうということ。その上で一番入りやすいテーマはというと、防災や防犯だと思います。一度集まれば今度はこういうことで集まりましょうと声かけられる。例えば先日、神木の商店街の忘年会の場で町会の方と老人ホームの方がいて、そこで老人ホームで慰安のイベントをやろうという話が盛り上がった。新しくできた老人ホームの理事長さんものってくれて、話が発展し、先日立派なお祭りが実施されました。施設の老人たちも喜びましたし、町会の方々もたく

さんいろいろな形で参加してくれ、子どもや若い人も見にきました。ちょっとしたきっかけからこうしたことができます。まず場をつくって、テーマを設定して、地域に投げかける。そこに何人かが集まって、いろいろなアイデアを出してつくっていく。とにかくまずつくことです。

永野委員 こども安全・安心協議会は、こどもの安全、防犯に目的を絞って立ち上げています。目的を絞って立ち上げた団体に対し、それだけにとどまらず進化しろというにはみんなの合意が必要だと思います。こども安全・安心の為に立ち上げているという意識もありますから、他のことには関心を持たない、見ようとしなないということもあります。そうではなくて、こども安全・安心協議会は宮前区安全・安心協議会の部会だから、安全・安心全体と見れば、防災も考えなければならない。防災を考えれば高齢者の見守りも必要だ。子育てにも関わってくるというふうに見方をどんどん広げて発展させていけるように、組織の目的も決めていかなければならないと思います。組織の目的を改めていけば、地域の様々なテーマにも取り組んでいけるようになると思います。

高木委員 事例集の様な資料をつけての提案というような形になるのではないのでしょうか。

初山自治会では3年まえから、元運動会だった行事をふれあいミーティングという名称に変えました。何をやっているかという、綱引きと大縄飛び、それ以外に防犯競技と防災競技というものをやっています。例えば担架をつくって人を短い距離を搬送してその先で消火訓練をしたり、犯人当てクイズをしたり、犯人に見立てた壁にカラーボールを投げるといったような競技をしています。最後にはみんなで飲みニケーションになる。こんな催しが今年で3回目になります。ただの運動会ではなく、それにいろいろな要素を加えて、複数の目的を果たせる大きな取組としてやっています。最初はどのくらい集まるのか不安だったのですが、850世帯という町会の中で350人集まっていますから、それまでの無関心層も少しは取り込んでいるのではないかと思います。これをどのように広げていくかを考えています。

三谷委員 やはり実践力だと思います。何か始めていかなければ動き出さない。目的意識を持って明日につながる行動を起こしていく。行政の地域振興担当はそれをフォローしていく。

永野委員 例えば防犯に限ると、安全安心協議会の年間スケジュールは会長、副会長が決めています。しかし、私を含め、年寄りだけでどんな知恵がでるのか？と以前から思っています。やはり母の会や若い人に運営委員のような形で関わってもらって、知恵をだしてもらえる組織をつくらなければと思っています。防犯に限らずコミュニティの核になるんだという合意ができれば、若い人も入れた知恵を出す会議をつくって、そこでコーディネーター的な役割も果たしていければよいと思います。この目的でつくったから、その目的に沿った活動しかしてはいけないんだというのは、どちらかという、これまでの日本的な組織の発想で、そうではなくて活動を横に広げていくんだということが合意できれば、そういう取組みもできると思います。

宇賀神部会長 わたしも、そこでとどまらない組織というのは素晴らしいと思います。まさにこの部会のテーマだと思います。

三谷委員 町全体を24時間で考えていたのですが、まず朝方の町では新聞屋さん、あるいは牛乳屋さんが動いています。日中は銀行やクリニックなどが地域の中で動いています。夜はといいますと、終電に近づくとしたがつて非常に多くの方が駅で降りてくる。それを待ち構えているのが、コンビニエンスストアや11時までやっている東急ストアなどです。まちは一日中動いています。

鈴木恵子委員 私たちは毎月地域のネットワーク会議をしています。18団体が参加していて、自主活動団体から、地区社協や民生委員、町内会、お医者さんや薬剤師さんなどいろいろな方が話し合っています。最近そこに子育て中のお母さんや地元のコンビニの店長さんも入ってきています。地域

の中の様々な問題に対し、それに対して誰がどうやって動いていったらいいか、行政も入って、何か水際で大きな事が起こるまえに地域でその問題を発見して食い止めようと話し合っています。今この会議が有名になっていまして、全国から見学者なども来ています。7年前からやっている会議です。

永野委員 名称も地域ネットワーク会議なのでしょうか？

鈴木恵子委員 もとはずこやか活動の会議で、野川セブンというグループで始めたのですが、そこにいろいろな方が入ってきました。最終的にはこんな形が良いのかなと思います。

小林委員長 高木委員の言われたように、事例を集めて、まず学校長に働きかけて、こういう風になっているところがたくさんあるから、各小学校にコミュニティが育つような場をつくってくださいというお願いや働きかけをやってはどうでしょうか。しばらくしたら、その進捗状況も確認していくような形ができれば動き出すと思います。

宇賀神部会長 校長ではなく、子ども安全・安心協議会に働きかけてはどうでしょう。校長によって考え方もかなり違うと思います。

鈴木和子 どういうことをテーマにするんですか？

宇賀神部会長 各地域で話し合うべきことだと思いますが、こども安全・安心協議会を使おうということは決定と考えてよいのではないのでしょうか。そしてそこに我々がプラスアルファを寄与していかなければならない。そこを考えていくのがこれからの議題ではないかと思います。

目代委員 先日の部会で、平小学校区と向丘小学校区のこども安全・安心協議会の活動は聞けたのですが、他の小学校区ではどのような活動が行われているのでしょうか。

高木委員 先日お話を聞いた2小学校区が、活動が一番進んでいる地域ということですよ。

宇賀神委員 成功しているのはリーダーになる人が積極的で、どんどん動いている地域だと思います。まだ目的意識をもっていない地域もあると思います。

鈴木恵子委員 野川は小学校区の区割りがまとめでにくいという事情もあり、中学校区が単位に活動しています。何をやっているかという8・3運動がメインです。しかし8・3運動もうまくやれば、ものすごく効果がある運動です。登下校に合わせた8時・3時だけではなく、多くの人に地域を歩いてもらう。ただ歩いてもらうだけではなくて、歩いたことによって元気になった、歩き方がうまくなった、1ヶ月でこれだけトータルで歩いたら何かもらえたなど、目に見える活動と子どもの安全・安心が結びつけば、参加者も増えるのではないかと話していました。

永野委員 こどもの安全・安心協議会が中心になっていくなら、これまでの縦割りの組織を少し改めてほしい部分もあります。例えば、教育委員会の地域教育会議があり、本当はここが地域のことをやる目的もあったと思うのですが、うまく動いていません。似たような運動や組織がいくつかあるように思います。うまく話し合って「また組織をつくるのか」「また仕事をふやすのか」と言われないうように、行政の中でも横の話合いをつけていただきたいと思います。地域教育会議と一緒にやっついていかないとうまくいかないと思います。

小林委員長 負担を感じてしまうような形では、ただでさえうまく動いていないものはさらに動かなくなるだろう。私は防犯と防災はどの地域にも共通する良いテーマ例だと思います。

三谷委員 こども安全・安心協議会のうまくいっている事例を聞いて思ったのは、やはり学校やPTAだけではなく地域の人が主体となって動かなければならないというのがこの間の結論ではないでしょうか。

宇賀神部会長 次回は具体的な解決策を検討していくということで、今日はここまでとしたいのです

が、いかがでしょうか？

事務局 次回までにはみなさんに事前にご意見をいただくようなペーパーを配布しご提出いただいた上で、検討に入りたいと思います。

宇賀神部会長 福祉コーディネーターは宮前では何人くらいいるのでしょうか？

鈴木恵子委員 神奈川県の実業なので、県単位で考えています。今年はコーディネーターを要請するためのプログラムを行ないます。私が今年考えているのは、例えば、どういうコーディネートをしたらいいのか、うまくいった・うまくいかなかった事例を、成功事例・失敗事例として40事例集めることです。そして、そこからボランティアたちがどの程度元気になったかなどの観点から、評価や効果を1年かけてまとめていきたいと考えています。それによってコーディネーターの育成プログラムを検討していきます。育成のためのプログラムも何かやらなければならないので、宮前区で講座を募集をかけてやることも検討しています。

高木委員 40事例はどのようにデータ化するのでしょうか。

鈴木恵子委員 大学と協力体制をつくり、大学院生が分析をするという話になっています。

小林委員 宮前区で何人くらいお願いしているのでしょうか。

鈴木恵子委員 宮前区で20人くらいだと思いますが、県内で、清川村や座間市などが一緒にコーディネーターの育成をやりたいという話も出ています。

小林委員 防災のコーディネーターは役所の方で進めていますね。

事務局 川崎市の防災コーディネーターが複数名いる唯一の区が宮前区です。